ORCID学術機関コンソーシアム懇談会

日時：2017年9月29日（金）17時～18時（オンライン会議）

参加者

* 阿部真育 北海道大学 URA、総合IR室
* 河村純一 東北大学 URAセンター
* 木下直 東京大学 附属図書館
* 森雅生 東京工業大学 情報活用IR室
* 内島秀樹 富山大学 学術情報部（図書館）
* 吉田千穂 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部URA
* 青木学聡 京都大学 情報環境機構／ＩＴ企画室
* 河本大知 京都大学 情報環境機構／ＩＴ企画室
* 天野絵里子 京都大学 学術研究支援室（URA室）
* 古村隆明 京都大学 総合専門業務室
* 鈴木秀樹 京都大学 附属図書館
* 冨岡達治 京都大学 附属図書館
* 畑埜晃平 九州大学 附属図書館（研究開発室）
* 山本鉱 九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室
* 三輪眞木子 放送大学 情報コース&情報学プログラム
* 市古みどり 慶応義塾 三田メディアセンター（図書館）
* 田邉浩介 NIMS 材料データプラットフォームセンター
* 天野晃 NIMS 材料データプラットフォームセンター
* 山地一禎 NII オープンサイエンス基盤研究センター
* 尾城孝一 NII オープンサイエンス基盤研究センター

資料説明

* 尾城：「ORCID学術機関コンソーシアムに関する検討資料」について説明。

議論の内容

* 森：補足すると、ORCIDの目は今中国に向きつつある。ORCIDの普及は国の科学技術政策にも大きな影響力を持つ。ORCIDの会費は寄付のようなものであり、サービスに対する対価ではないが、文化の違いから、この考え方は日本ではなかなか受け入れられない。いろいろと困難もあるが、多くの関係者に理解を深めてもらい、日本がORCIDの意思決定にも関与し、日本に有利になるような運営に持っていくべきだろう。そのために、コンソーシアムのような形を日本にも作れないかと考えている。
* 田邉：東工大のリポジトリのORCIDの連携機能は内製か？
  + 森：内製。
* 阿部：会員のカテゴリには、BasicとPremiumがあるようだが、そもそも組織内のどの部署の判断で会員となったのか。またどこがORCIDの運用を担当しているのか？
  + 森：東工大では総務担当理事の了解を得て、契約している。IR室が企画して、APIの使い方などを検討している。リポジトリとORCIDの連携を実現しつつある。
  + 田邉：研究者総覧（Samurai）でORCIDを使っている。頻繁に所属機関を移動する若手向け研究者のVisibilityをあげることを目的にしたサービス。業績データのポータビリティを高めるためにORCIDと連携している。
  + 市古：図書館、学長室、学術研究支援室（URA）を兼務しているわたしが、ORCIDの可能性を説明し、研究担当理事を説得した。研究機関として参加するのは当たり前だろうと理事を説得した。但し、文化の違いから、どうしてもORCIDは何をしてくれるのかという議論になる。サービスとしては、現状として繋がっているものはない。図書館、学術家休止縁室、ICT部門で、Pureとの連携を検討している。
  + 尾城：NIIでは、KAKENでAPI連携を始めた。筑波は、研究担当理事からのトップダウンで機関メンバーになった。しかし、学内でどの部署がORCID担当になるのかについては調整中、と聞いている。
* 田邉：今日の参加者は機関メンバーになる、あるいはコンソーシアム参加したいと本気で考えているのか？それとも様子見なのか？
  + 森：様子見のところもあるだろう。個人的にはORICDの意義は理解できるが、大学としてどのように位置づけるかを考えているところが多いと思う。
  + 河村：東北大のURAセンターの分析チームとしてはORCIDを活用したいが、学内で説明しようすると難しいところがある。長期的にお金をどこが払うかについて調整が必要。URAだけではなくて、大学で広く理解してもらいながら、適切な担当部局を考えていくというのが課題。
  + 青木：京大は4月から情報担当理事も含めて検討している。メリット（何ができるか）をちゃんと考えて理事裁定を通そうという作業をしている。
    - 尾城：京大のような大きな大学で、情報部門と図書館とURAの連携ができているのはうらやましい。
    - 青木：URAサイドからすると、ORCIDに関する情報が十分に広まっていないので、広報や啓発活動も必要なのではないかという議論もある。
* 山本：海外ジャーナルであれば、きれいな論文メタデータを自動的に取り込めるが、日本語の論文だとORCIDにメタデータが流れてこない。川上、例えば日本の学協会から、正確なメタデータが流れてくる仕組みはないのか？
  + 田邉：JaLCがCrossrefのように対応するのが一番良い。
  + 尾城：学協会のコンソーシアムでも、学会出版者としての立場から、そのような対応を考えているようだ。
  + 森：過去の論文について、ORCIDのIDで名寄せをするのには時間がかかる。投稿時にIDをつけるようになれば、進んでいくだろう。これは書誌情報的な見方であって、オープンなIDという意味で大学としても意味がある。大学によると職員番号をIDとして使っている場合もあり、オープンなIDとして使いにくい。ある研究者が確かに自分の大学に所属しているという情報をORCIDに流すという意味でも意義がある。
  + 田邉：ORCIDを始めてみると、組織内における情報管理が省力化になる。大学院生や留学生など、機関を離れた後のトラッキングとしてもNIMSは意義を感じている。
  + 尾城：先行しているNIMSや東工大の先行事例をもっと共有するのが良い。
  + 森：個人ではCRISを運用できない、かつ、エクセルでの管理も難しいような小規模の大学でもORCIDを使うのは意義がある。そういったアイデアだけでも共有できるのが良い。
* 尾城：今日はTV会議だったが、リアルな会議を設定した方が良いか？利用のケーススタディや担当理事の説得の仕方などについて議論する。JPCOAR内にもTFができているので、うまく連携して情報共有できそうである。
  + 森：やるのが良いと思う。
  + 尾城：既に機関メンバーとなっているところにも協力してもらってシンポジウムのようなイベントを考えたい。
  + 森：関東地区のIRも協力してくれるかも知れない。
* 森：ORCIDのスタッフを呼んで、日本の状況をリアルに伝えるのも良いのではないか。
* 畑埜：九大では、リポジトリや研究情報システムは安定運用できている。しかし、アクティブにR&Dをしている感じはない。図書館だけだと予算が限られているので、図書館だけで費用をサポートできない。かつ、キャンパス移転の問題もあり、予算的に厳しいところもある。Pureを導入しているので、それとの連携ができれば、面白いかも知れない。
* 内島：富山は10月から機関メンバーとなることが決定した。学長がORCIDの地域ディレクターから直接話を聞き、決断した。執行部が納得すれば導入は早い。また、研究者達はORCIDのことをよく知らないので啓蒙活動も必要だと考えている。
* 三輪：今回はオブザーバとしての参加。放大としてのORCID対応の検討はまだこれからという段階。研究者情報DBは、去年までは内製だったが、今年からはResearchmapを使っている。
* 尾城：次のアクションとしては、リアルに顔を合わせるイベントを企画していきたい。
  + 田邉：それはロードマップのどこにあたるのか？
  + 尾城：原案のロードマップは急ぎすぎではないかと思っている。いきなりコンソーシアムの設立趣意書を配布しても理解が得られないのではないか。
  + 田邉：設立趣意書だけでも出すと海外からも進捗が見えてよいのではないか？
  + 河村：設立趣意書のようなものがあると、学内での説明もしやすい。
  + 森：対ORCID対策としても重要であろう。
  + 尾城：では後々あまり拘束されないような、理念的な文書を考えたい。今日参加した皆さんにはMLに入って頂き、今後の情報共有や議論を進めていきたい。必要であれば、Webサイトを立ち上げることも検討したい。

以上